

# 3年間学習活動の遂行による認知障害を持つ高齢者の変化について

Research on change of elderly adults with cognitive impairment by learning activity in three years

○坂口佳江<sup>1)</sup>・孫 琴<sup>1)</sup>・高橋伸子<sup>1)</sup>・石川眞理子<sup>1)</sup>・宮田正子<sup>1)</sup>・吉村昌子<sup>1)</sup>  
吉田甫<sup>1)</sup>・土田宣明<sup>1)</sup>・大川一郎<sup>2)</sup>

SAKAGUCHI Yoshie・SUN Qin・TAKAHASHI Nobuko・ISHIKAWA Mariko・MIYATA Masako・  
YOSHIMURA Masako・YOSHIDA Hajime・TUCHIDA Noriaki・OHKAWA Ichiroh  
(<sup>1)</sup>立命館大学・<sup>2)</sup>筑波大学)

(Ritsumeikan University・University of Tsukuba)

Key words: 高齢者・学習活動・認知障害

## 目的

これまでの先行研究において、学習活動（音読・計算を反復遂行すること）により、健康高齢者の認知機能の様々な側面の改善あるいは維持することが明らかになってきている。しかし、日常生活という側面からの介入研究は極めて少ない。そこで、本研究では、学習活動に参加した健康高齢者の変化を調べるため、認知障害を持つ高齢者1名を中心として検討することを目的とした。

## 方法

### 実験参加者

U病院の神経内科に認知障害で以前から受診しているTさん（80歳、男性）は、主治医から「音読・計算」活動を紹介され、2008年5月から立命館大学の学習活動に参加するようになった。学習活動に参加した状況は、以下の通りであった。最初の1年間は週2回の学習（1回分の宿題）で、2年目からは週1回の学習を継続し（宿題2回分）、3年を経過した。3年間の学習活動の出席率は、95%以上であった。2011年3月卒業後、創生の会というOB会に加入し、現在月1回程度立命館大学で様々な活動を始めている。

### 手続き

(1) 認知機能と前頭前野機能を評価するために、Mini-Mental State Examination(MMSE)と Frontal Assessment Battery at the bedside(FAB)を用いた。記憶を検討するために、作業記憶課題(Counting Span Test、CST)、短期記憶課題(STM)を実験参加者に実施した。学習活動に参加した3年間の間、半年ごとに6回の査定が実施された。

(2) 主観的な評価を検討するため、2008年度の学習文集に本人が書かれた感想文を紹介する。

(3) 客観的な評価を検討するため、サポーターからの観点を一部紹介する。

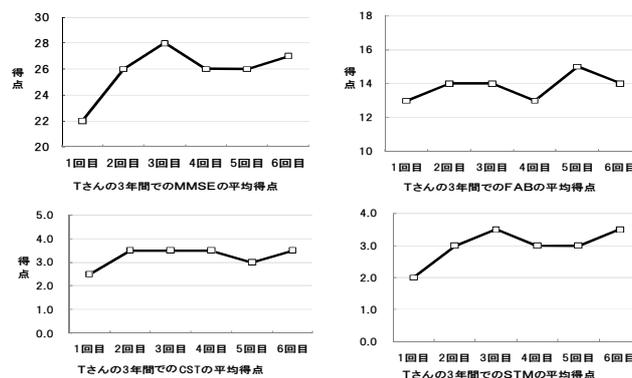
### 倫理的配慮

研究を開始する前に、本人に介入研究の目的と安全性について説明を行なった後、書面による同意を得た。

## 結果と考察

### (1) 認知機能、前頭前野機能、記憶について

Tさんの認知機能、前頭前野機能、記憶に関して、3年間で行われた6回の査定評価を以下の表に示した。



図で示したように、認知機能や、前頭前野機能および記憶には、ある程度の改善あるいは維持することが確認された。すなわち、学習活動が長期間にわたると、学習活動の効果があると考えられる。

### (2) 本人からの自己評価について

「私はU病院の患者です。2008年の5月から参加して週2回参加しています。慌てものですから風呂場の栓をせず、シャワーを被ることがしょっちゅうありましたが、次第に判断力がついて来たおかげで善くなってまいりました。私は一人住まいの80歳ですが、お話をしようにも相手がおらずで、この頃は歌の練習をしています。CDを入れてカラオケを唄うのです。とても良い練習だと思います。デジカメもNHK文化教室に入会し2年目になります。一眼レフを持参していきますが元気で何よりです。何時も感じるのサポーターの方々、特に学生さんに当たった時はパワーを感じ受けとめます。サポーターの努力が一番だと思います。何時の時代も代償なしのご奉仕に感謝を申し上げます。」

これらのことから、学習活動のきっかけで、前向きな気持ち、自信が出てきたと考えられる。

### (3) サポーターからの客観的な評価について

Tさんは、音読・計算活動を実施中、真剣に取り組む姿があった。また、学生さんとコミュニケーションをする場面がよくみられ、笑顔がよくみられたとのコメントがあった。これらのことから、Tさんは、日常生活の中でも影響があると考えられる。

本研究では、心理的、主観的、客観的な側面から、Tさんを中心として検討した結果、学習活動の効果があり、学習活動の遂行は、高齢者の日常生活に影響を及ぼすと考えられる。